

すずか倶楽部 原田 勝二 議員



1 安全で安心なまちづくり 2 いじめ問題

質問1(1) 津波浸水予想地域における、避難ビルの空白地域対策。

答弁1(1) 若松8棟、箕田8棟、長太11棟の、合計27棟の空白地域避難ビル化を推進していく。

質問1(2) 緊急避難所・収容避難所のトイレ対策。

答弁1(2) 今後とも、非常用トイレ、マンホールトイレの整備に努める。

質問1(3) 南海トラフと地震被害予想(8月29日政府発表)への対応。

答弁1(3) 「鈴鹿市地域防災計画」を再検討し、新た

に「津波対策編」を編成する。

質問1(4) 三重県建設産業活性化プラン(地域の安全・安心の確保)と連携した鈴鹿市の施策。

答弁1(4) 三重県建設産業活性化プランを参考に鈴鹿市建設産業界の育成と活性化に努める。

質問2(1) 鈴鹿市教育委員会の取り組み。

答弁2(1) 「鈴鹿市教育振興基本計画」があり、「いじめ問題に関する条例制定」は考えていない。

質問2(2) 武道教育(心・技・体)。

答弁2(2) 武道は日本の伝統文化であり、相手を尊重する態度を養うなど人間形成の醸成に努める。

質問2(3) 「仰げば尊し」(師の恩・志)。

答弁2(3) 「仰げば尊し」は小・中では歌われず、卒業式歌の選定は各学校にまかせている。

すずか倶楽部 後藤 光雄 議員



1 ラジオ体操について 2 コミセンの利用料について 3 空き家対策について

質問1(1) 小学生の夏休みの実施状況は、又8月4日の巡回ラジオ体操への小学生の参加状況は。

答弁1(1) 全小学校区において283ヶ所で実施。1週間程度が130、2週間程度が141、お盆以外実施が12ヶ所。8月4日の参加は1000人程。

質問1(2) 健康づくりの為にも適しているラジオ体操を身体で覚えるよう学校で取り組むべきだと思いが教育委員会の考え方は。

答弁1(2) 夏休みのラジオ体操は地域で子どもを育てていただく貴重な機会であり、地域ぐるみで普及促進が

図られるよう社会体育で進める必要がある。

質問2 コミセンの利用が他施設と違い無料であることを見直す予定はあるか。

答弁2 市全体の行政サービスに対する適正な受益者負担の在り方について見直す行財政改革アクションプランの中で取り組んでいく。

質問3(1) 1戸建空き家が鈴鹿市にどの位あるか。

答弁3(1) アパート、長屋、賃貸、販売用の住宅等を含んだ空き家は、住宅総数7万7320戸に対して7020戸9.1%(20年度)となっている。

質問3(2) 良質の空き家を地域の中で活かせる施策は考えられないか。

答弁3(2) 空き家バンクと称する情報提供を行う体制づくりの先進事例の把握に努めていきたい。

市民クラブ 太田 龍三 議員



1 文化振興の強化について

質問1(1) 文化振興部の予算の推移、子ども達への今後の事業展開について。

答弁1(1) 平成20年度から平成21年度にかけ、若松公民館や稲生公民館の建て替え工事があり、平成20年度は13億3,899万7千円だが、平成23年度は6億6,235万8千円で、平成24年度は7億4,001万3千円である。事業展開においては、文化・芸術を知り体験できるよう、小中学校へプロの演奏家が出向き演奏を体験した後、文化会館で本格的コンサートを鑑賞する取り組みなど。

質問1(2) 図書館の利用の多い年代層、利用者を増

やす努力について。

答弁1(2) 平成23年度年齢別貸出人数は、30歳代の方が18.9%、40歳代の方が16.6%、60歳代の方が16.2%である。幅広い年齢層に利用者がわたることから、それぞれの年齢層にあった図書資料の質及び量・サービスの充実、地域サービス事業の拡充、広報紙を使った啓発に努める。

質問1(3) 文化振興基金の目的及び今後の活用について。

答弁1(3) 目的は文化活動の推進、文化教室等の充実、鑑賞機会等及び文化情報の提供と充実、文化活動の顕彰、文化的資産の保存と継承、文化的環境の整備である。活用については、現在作成中の文化振興ビジョンの実現に向けての事業の財源にできればと考える。